

令和元年6月18日

パフィオペディラム・サンデリアヌムが 初めて開花しました!!

京都府立植物園の観覧温室で「パフィオペディラム・サンデリアヌム」が開花しました。本種は、カリマンタン（ボルネオ）島のムル山の固有種で1885年に発見されました。20世紀に入ってすぐに、栽培株が失われ、野生個体も絶滅したと考えられていましたが、1978年に再発見されました。

当園では2018年（平成30年）に導入し、今回初めて開花に成功しました。見頃は7月上旬まで続く見込みです。この機会にぜひご覧ください。

パフィオペディラム・サンデリアヌム

科 名：ラン科パフィオペディラム属
学 名： *Paphiopedilum sanderianum*
和 名：オバケトキワラン
原産地：マレーシア

ランに限らず世界で最も花の長い植物として有名で、垂れ下がった2枚の花弁の長さを合わせると、180cmに達した記録がある。

石灰岩に着生する大型のラン科植物で、高温多湿を好む。

幅7～10cmの花は赤味を帯びた茶色で、側花弁は暗紫紅色を帯び、リボンのようによじれ、30cm程垂れ下がる。

